

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑 531番地1
自己評価作成日	平成24年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 22 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人ひとりが自由に楽しく暮らして頂けるよう職員一同取り組んでいます。  
豊かな自然に囲まれ穏やかに暮らして頂けるようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山々を眺められ緑豊かな自然を感じることでできる場所にある。医療機関との緊密な連携により日頃の健康管理が徹底され、利用者は安心して過ごすことができている。職員は管理者のケアに対する真摯な姿勢や取り組みから学び、日々より良いケアに取り組んでいる。職員同士の連携もよく取れている。開設から5年を経過し、課題であった地域とのつながりを徐々に築いており、今後さらに地域の中にとけ込み、地域の一員として貢献していくことが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホーム秦皇
<b>(ユニット名)</b>	ほたる
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	岡田 絹子
<b>評価完了日</b>	平成 24年 7月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着の意義を理解するためにもわかりやすい言葉で理念を作り、管理者、職員は共有している。共有できるように目につく所に掲げている。	
			(外部評価) 地域と共に仲良く生活するという思いを込めた理念は、地域密着型サービスとしての意義を大切にしている。事業所の理念の他に職員一人ひとりのケアの理念を個人ロッカーに貼り、常に目にして理念に基づいたケアができていないか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的には交流はできていない。 まだ、ゴミ出しの時、散歩の時などのあいさつ程度となっている。	
			(外部評価) 地区の班長から地域の運動会や花見などの誘いを受け、利用者と参加するなど地域と交流している。地域住民が事業所を見学しに來たり、地域の芋炊きなど住民とふれあう機会を増やしている。事業所の行事の様子が分かるホーム便りを地域にも配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症という病気は以前よりは理解して頂いていると思われるが、事業所から具体的には、発進していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事等の報告を主にしている。 利用者の方への様に接しているかなど話し合い、意見を活かしている。 例えば、災害時の対応などについても話合っている。	
			(外部評価) 事業所の報告や課題について積極的に意見交換がされている。参加者からの意見は真摯に受け止め事業所のサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入居状況など月1回報告している。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席してもらい、利用者について助言をもらうなど協力関係が築けている。研修案内などの情報を提供してもらうなど日常的な連携がとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の移動もあり、全ての職員ではないが具体的な行為は理解している。理解の不十分な職員には、ホーム内勉強会などで拘束の理解を促している。身体、施錠のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束の行為や弊害について、研修などを通して全職員が理解するように努めている。利用者一人ひとりの行動や話をじっくり聞いてその日の状態を把握し、安全で自由な暮らしを支援している。言葉で行動を抑制したり、威圧感や不安を与えていないか職員同士で意識して注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内外の勉強会にて学び虐待防止について話合っている。日常的に何げなく行っていることが虐待につながっていることなど互いに気づく様にし防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会など理解し、また専門書等において個々に学んでいるが、活用できるような、支援は、できてない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結は、理解納得されるよう説明できていると思われるが、解約の時、説明不十分で御迷惑をかけることもあった。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱の設置はしているが、具体的に意見、要望を外部者へ表せる機会を設けていない。面会にこられた時など、個別にきいている。	
			(外部評価) 家族が意見や要望を言いやすいよう職員から声をかけ、日頃の利用者の様子を伝え、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。利用者の様子が分かるホーム便りを郵送したり、遠方でなかなか面会に来られない家族に連絡をして、意見や要望を聞く機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回業務カンファレンスを開き職員の意見、提案をきいて反映させている。	
			(外部評価) 普段から管理者は職員が意見や要望を言いやすい環境づくりに配慮している。出された職員の意見により、希望する研修には積極的に参加させるなど、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回昇給あり。 有資格者に手当あり。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を確保している。 経験年数で、実践者研修など参加できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内の介護施設主催による、「地域ケア会議」に参加している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 御本人が不安なくサービスが受けられるよう入居にあたっては十分な話し合いをしている。 常に笑顔で接し、声かけのタイミングなど考え安心して頂けるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方が何を思われているのか十分に話し合い、お互い信頼できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 御本人、御家族が何を1番にして欲しいかを今までの情報と話し合いで適確に感じることができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 以前の情報、現在の身体状況を踏まえ、その方のできる事、例えば、調理の下ごしらえ、味見、食器洗い、洗たく物畳みなど家事を自分からして頂けるような関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人に何か問題が生じた時（そうでない時も）御家族に連絡相談し共に支えて頂けるような関係にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの人や場所に関しては要望があれば同行している。また会いたい人には連絡をし、会いにきて頂いている。	
			(外部評価) 今までの生活の中で培ってきた馴染みの人との関係が途切れないように、訪問してもらいゆっくり話せるように配慮し、会いに行く機会も増やすなどして関係が継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとり個性があるので全員という事にはならないが、気の合われる方同士関わりを持ち、混乱のないよう見守り支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても連絡を取っている。現在までの情報を関係者に伝え、その後も安心して生活して頂けるよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランなど、できるだけ本人と話合って決定している。困難な場合は本人本位で考え、また家族の方と話し合いもしている。	
			(外部評価) 日頃から利用者の気持ちに寄り添って話をじっくり聴くように努めている。思いを伝えにくい利用者には、日頃の行動や表情から思いを汲み取ったり家族に聞くなどして、利用者本位になるよう努めている。	利用者の今までの暮らし方や生きがいなど様々な情報を集めて、利用者が望んでことを職員が利用者の視点に立って話し合い共有するなど、さらなる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) なるべく、その方の今までの生活にふみ込みすぎず、さりげなく会話等で、これまでのサービス利用の状態を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 皆さんが同じ時間に同じことをするというのではなくその人なりの日常を優先するように努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月1回ケアカンファレンスを行っている。話し合いで介護計画を作成している。家族の方など参加できない時はあらかじめ意見をきいておいて現状にあった介護計画になるよう作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の要望や意向が反映された介護計画になるよう、全職員で検討し作成している。定期的にモニタリングを行い、利用者の状態に応じた介護計画の実施ができているのか確認をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に記録している。情報を共有しながら1月に1回のカンファレンズ1ヶ月間の様子を報告し合い介護の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医の受診 専門病院の受診</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 年2回地域の消防署の方と一緒に避難訓練している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所の時に事業所の協力病院の医師がかかりつけ医と なります。この時、御本人と御家族の同意を頂いてい るかかりつけ医は認知症の病気を深く理解している。 歯科、眼科等の受診を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の同意を得て事業所の協力医がかかりつ け医となり、月2回往診し健康管理等を行なってい る。皮膚科などの専門医については、希望する病院に 職員が通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常での変化などの情報は、常に職場内看護職員に連 絡し、対応など相談し、必要であれば受診ができるよ う支援する。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された時は、現在のこと身体状況がわか るよう情報を送り退院時は、今後どのようにすべきか の情報を頂き相談するようにしている。 病院関係者と日頃情報交換を行い関係作りをしてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化、終末期のあり方は、家族の方と入居時または 早い段階での家族との話し合いを行っている。 理解は得られている。しかし、地域の関係者とのチ ームで支援ということにはなっていない。	
			(外部評価) 入居時に、利用者と家族に終末期について事業所がで きることでできないことを説明している。利用者の状 態の変化に応じて随時意向を確認している。医師と職 員が協力して、利用者や家族にとって納得のいく最期 が迎えられよう支援している。家族の宿泊も可能と なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時の応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っているが、職員移動等で全職員ではない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等で避難できる方法は、全職員が理解している。 災害時、地域の方に協力要請はしている。  (外部評価) 定期的に避難訓練を実施し、利用者の居室の家具を固定したり、災害時の必要物品の検討など、普段から災害対策について意識するよう努めている。大規模災害を想定しての訓練も計画している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの性格等を理解し言葉に注意し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。また職員同士話し合いしながら対応している。  (外部評価) 管理者は一人ひとりの人格を尊重し、利用者の話に耳を傾けており、その姿勢は職員にも浸透している。普段からトイレ誘導時など利用者のプライバシーに配慮して、さりげない声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中では本人尊重ということを考え、思いや希望を表わしたり自己決定できるように働きかけている。言動を待つということも考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の決まりはベースとしてあるが、御本人のその日の様子状態を考え、希望にそえるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ○定期的に美容師さんと呼んでいる。 ○好みのヘアーピンなど使用されている。 ○毎朝整容ひげそりなどの支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の好みは、日頃からの様子でわかるので体調的に良ければ嫌いな物は別のものに変更したりしている。食事作りもさりげなく一緒に準備、片づけができるようにしている。しかし食事は、現在介助者が多いため一緒にはできていない。	
			(外部評価) おせち料理やそうめん流し、芋炊きなど季節を感じる手作りの食事を取り入れている。お寿司や誕生日のケーキを一緒に作ったり、気候の良い時は中庭でパーベキューをするなど、食べることが楽しみになるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日チェック表に一人ひとりの摂取量など記録している。習慣に応じた支援は、コーヒーだけといったことなく、好みののみ物を出すといった支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりに応じた口腔ケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンをつかみトイレで排泄して頂けるよう支援している。 自分からトイレに行かれない方には、時間を見て声かけをしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、その日の体調や様子を考慮しながら、気持ち良くトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操をしたり（お腹体操）水分量など、またお腹にいい牛乳を飲んで頂くなど便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の声かけに拒否があれば、時間、日をずらしたりと、本人の意思を優先している。 一人ひとりに応じたタイミングや声かけに努めている。	
			(外部評価) 利用者の入浴したいタイミングに合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴が苦手な利用者もいるが、気持ち良く入浴できるように声かけや対応を工夫している。身体状態によっては職員2名で介助を行い、安全に入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中も休めるよう、自室への声かけを行ったり、またソファにて休めるよう声かけし、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容について充分理解している。 服薬による症状の変化などについては常に気をつけ異常があれば医療関係者に連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの役割を持ってもらう。新聞折り、ペーパー折り、箱作りなど。 時々季節の花を活ける。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望が言える方は、できるだけ希望に添えるよう支援している。意思疎通の困難な方は、その時の状態で(天気も含めて)見きわめ、戸外に出られるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所の周辺は自然豊かな環境で、中庭で外気浴を楽しむことができ気分転換になっている。買い物やドライブなどの機会を増やし、一人ひとりの状態に合わせて日常的な外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心されることもあるので職員は理解している。 買物などに参加されお金を自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に本人自から電話できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 洗面台などに、季節の花をかざっている。テレビ、音楽など自由に見たり聞いたりできるよう机の位置、ソファの位置など工夫し、気持ち良く過ごして頂けるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 壁や床に天然木を多く使った明るい雰囲気のリビングには畳スペースもあり、利用者は思い思いの場所でゆったりとくつろぐことができる。ふたつのユニットの間にウッドデッキのある中庭があり、花や野菜を育てるなど憩いのスペースとなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ひとりがけのソファを用意したり、畳の所があり数人が並んで座ることができたりする。食事も気の合ったものが過ごせるよう席の配置に工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人が置きたいものを置きたい所に置いて頂いている。家族の写真を貼っていつでも見られるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室の窓からは四季折々の風景を眺めることができる。洗面台とクローゼットがあり、ベッドとタンスが備え付けられている。利用者は居心地良く過ごせるように、お気に入りの物を持ち込んでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとり”わかること””できること”を活かしては、工夫が不十分である。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑 531番地1
自己評価作成日	平成24年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人ひとりが自由に楽しく暮らして頂けるよう職員一同取り組んでいます。豊かな自然に囲まれ穏やかに暮らして頂けるようにしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山々を眺められ緑豊かな自然を感じることでできる場所にある。医療機関との緊密な連携により日頃の健康管理が徹底され、利用者は安心して過ごすことができている。職員は管理者のケアに対する真摯な姿勢や取り組みから学び、日々より良いケアに取り組んでいる。職員同士の連携もよく取れている。開設から5年を経過し、課題であった地域とのつながりを徐々に築いており、今後さらに地域の中にとけ込み、地域の一員として貢献していくことが期待される。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) くり

記入者(管理者)

氏名 伊藤 ゆみ

評価完了日 平成 24年 7月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフは理念に基づき、実践を心がけている。地域密着型サービスの意識は少ないが、徐々に実践につなげている。	
			(外部評価) 地域と共に仲良く生活するという思いを込めた理念は、地域密着型サービスとしての意義を大切にしている。事業所の理念の他に職員一人ひとりのケアの理念を個人ロッカーに貼り、常に目にして理念に基づいたケアができているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の季節行事への参加、小中学生の訪問受け入れなど交流している。又、広報配布、地元商店での買い物など、交流に努めている。	
			(外部評価) 地区の班長から地域の運動会や花見などの誘いを受け、利用者と参加するなど地域と交流している。地域住民が事業所を見学しに來たり、地域の芋炊きなど住民とふれあう機会を増やしている。事業所の行事の様子が分かるホーム便りを地域にも配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の総合学習受け入れ、職員の勉強会、運営委員会での話し合いなどで、地域の人に向け認知症の理解を深めて頂くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進委員会では、毎月の行事報告、季節行事参加 者や施設の行事参加者の意見に基づいて話し合い。意 見を取り入れている。	
			(外部評価) 事業所の報告や課題について積極的に意見交換がされ ている。参加者からの意見は真摯に受け止め事業所の サービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市担当者とは必要な情報を共有し、サービスの取り組 みを伝えながら協力関係を築いている。地域内では町 内ケア会議により連絡を取っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席してもらい、利用者について助言 をもらうなど協力関係が築けている。研修案内などの 情報を提供してもらうなど日常的な連携がとれてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の研修参加、会議での話し合いを通して、拘束の 具体的行為を理解し、拘束しないよう取り組んでい る。	
			(外部評価) 身体拘束の行為や弊害について、研修などを通して全 職員が理解するように努めている。利用者一人ひとり の行動や話をじっくり聞いてその日の状態を把握し、 安全で自由な暮らしを支援している。言葉で行動を抑 制したり、威圧感や不安を与えていないか職員同士で 意識して注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修参加や職員同士の話し合いで学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待防止に努めている。利用者の自宅についてはかかわっていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内研修で学ぶ機会は持っている。参加もしているが、まだ活用できるという段階ではない。カンファレンスの時などに話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 気軽に聞いて頂けるよう対応し、適切で十分な説明に努め、理解して頂いていると思う。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族面会時には意見を聞き、利用者様からは日々の会話から意見を聞く。上司に報告、職員間で運営に反映させる。意見箱設置も行っている。外部へ表せる機会はない。  (外部評価) 家族が意見や要望を言いやすいよう職員から声をかけ、日頃の利用者の様子を伝え、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。利用者の様子が分かるホーム便りを郵送したり、遠方でなかなか面会に来られない家族に連絡をして、意見や要望を聞く機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業カン ケアカン 日々の申し送りノートなど活用し、職員同士の意見を聞き反映させている。	
			(外部評価) 普段から管理者は職員が意見や要望を言いやすい環境づくりに配慮している。出された職員の意見により、希望する研修には積極的に参加させるなど、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の努力や実績、勤務状況の把握はされており、労働時間は適切に管理されているが、職場環境、給与水準にやりがいが見いだせない時もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内外の研修参加 施設内月1回勉強会開催。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 月1回町内ケア会議参加で他の同業者と情報交換。 月1回ホーム長会議で社内の情報、指示を共有している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 日常的に利用者様の声に耳を傾け、信頼関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設内見学や事前調査時に困っていることなどを聞き入れ、初期の関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要とされる支援を見極めて努めている。他のサービス利用も含めた対応はできていない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の残存能力を生かし、スタッフと共に協力して、暮らしを共にする関係を築くよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さまの協力を得て、家族の絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) かかりつけ医への受診や、近くへの買物外出を通し、馴染みの人や場所へ行くことはあるが、継続性はない。	
			(外部評価) 今までの生活の中で培ってきた馴染みの人との関係が途切れないように、訪問してもらいゆっくり話せるように配慮し、会いに行く機会も増やすなどして関係が継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同志の関係を把握して、席の位置や食事の分担を工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) できていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事前調査、家族からの意見も含め本人の意向把握に努めている。 困難な場面は本人本位として検討している。  (外部評価) 日頃から利用者の気持ちに寄り添って話をじっくり聴くように努めている。思いを伝えにくい利用者には、日頃の行動や表情から思いを汲み取ったり家族に聞くなどして、利用者本位になるよう努めている。	利用者の今までの暮らし方や生きがいなど様々な情報を集めて、利用者が望んでことを職員が利用者の視点に立って話し合い共有するなど、さらなる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの情報、アカスメント、他施設からの情報など利用し経過把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や業務日誌、申し送りノート、医療連携往診など、スタッフ一人の観察だけでなく他の情報も共有に把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日常生活の中で一人一人観察し、月に一度職員間で話し合い、意見を基に、計画作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望や意向が反映された介護計画になるよう、全職員で検討し作成している。定期的にモニタリングを行い、利用者の状態に応じた介護計画の実施ができているのか確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 「心身の情報」や「介護記録」に日々の状況を記入。職員間で情報を共有し、モニタリングを行い、介護の実践、見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事業所としての他機能化は行っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 歯科や皮膚科受診介助、家族との連絡などで、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるのではないかとと思われる。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設のかかりつけ医往診、月2回。 本人家族の希望する専門医受診。 常に主治医、看護師に連絡を取り適切な医療が受けら れるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の同意を得て事業所の協力医がかかりつ け医となり、月2回往診し健康管理等を行なってい る。皮膚科などの専門医については、希望する病院に 職員が通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に利用者様を観察し、病院の看護師、医師と連絡相 談を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 体調の変化や緊急時には相談や、情報交換し、病院関 係者との関係づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意志を尊重し、早い段階から十分説明 し、方針を共有している。地域の関係者は家族外は チームに入っていない。	
			(外部評価) 入居時に、利用者と家族に終末期について事業所がで きることでできないことを説明している。利用者の状 態の変化に応じて随時意向を確認している。医師と職 員が協力して、利用者や家族にとって納得のいく最期 が迎えられよう支援している。家族の宿泊も可能と なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習を受けたりシュミレーションを実際行ってみたり、緊急時にす早く対応できるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年2回行い全職員が対応できるようにしている。 近隣住民も参加を呼びかけている。  (外部評価) 定期的に避難訓練を実施し、利用者の居室の家具を固定したり、災害時の必要物品の検討など、普段から災害対策について意識するよう努めている。大規模災害を想定しての訓練も計画している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重している。状況に応じて、個人に対応した言葉かけをしている。  (外部評価) 管理者は一人ひとりの人格を尊重し、利用者の話に耳を傾けており、その姿勢は職員にも浸透している。普段からトイレ誘導時など利用者のプライバシーに配慮して、さりげない声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が希望しやすいよう、声かけや雰囲気づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合が優先する場合があるが、入居者様の安全を考慮した場合である。一人ひとりのペースに合わせ、できるだけ希望にそって努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師さん来所時、希望を言ってもらっている。化粧される方もあり。入浴後の衣服はなるべく自分で選んでもらい、できない人はその人らしくスタッフが考えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人に合わせ、食事の下ごしらえ盛りつけ、食器洗いなど、一人ひとりにできることや好みに協力してもらっている。	
			(外部評価) おせち料理やそうめん流し、芋炊きなど季節を感じる手作りの食事を取り入れている。お寿司や誕生日のケーキを一緒に作ったり、気候の良い時は中庭でパーベキューをするなど、食べることが楽しみになるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量のチェック、体の状態に応じて、足りない分を促したり、食事の形態を変える工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、行っている。声かけで促し、必要な人には準備や介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、トイレ誘導声かけし、排泄の失敗をなくす。できることは自分で行ってもらう。座位のとれる方は、介助でもトイレに座ってもらっている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、その日の体調や様子を考慮しながら、気持ち良くトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表から個人のパターンを把握し、水分や食物摂取でも工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の都合で時間帯が決められてしまう。入居者様の希望がなかなか受け入れられていない。体調を見て行っている。	
			(外部評価) 利用者の入浴したいタイミングに合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴が苦手な利用者もいるが、気持ち良く入浴できるように声かけや対応を工夫している。身体状態によっては職員2名で介助を行い、安全に入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意志で、休んで頂いている。 一人で移動できない方、体調不良の方は介助で休んで頂く。夜間眠れるよう昼間運動量を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方せんを個々のファイルにとじて用法用量を理解している。服薬支援と症状の変化の確認には努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆で笑ったり喜んだりしてもらえよう、その人に合った様々な家事やレクリエーションを提供し、スタッフと一緒に日々を過ごせるよう取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度、外出、ドライブ、買物のどれかを行っている。日常では、中庭のデッキ散歩、野菜の手入れなど希望と状況に応じ出られるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所の周辺は自然豊かな環境で、中庭で外気浴を楽しむことができ気分転換になっている。買い物やドライブなどの機会を増やし、一人ひとりの状態に合わせて日常的な外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 大切さは理解しているが、所持の支援は行っていない。職員が預かっていることを理解してもらっている。買物の時は、本人が使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、電話したり手紙のやり取りができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんがゆったり清潔にすごせるよう環境整備を行っている。花や掲示物にも工夫し、目で楽しめるようにしている。	
			(外部評価) 壁や床に天然木を多く使った明るい雰囲気のリビングには畳スペースもあり、利用者は思い思いの場所でゆったりとくつろぐことができる。ふたつのユニットの間にウッドデッキのある中庭があり、花や野菜を育てるなど憩いのスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアでの席順や、個室での利用者同士の行き来、一人一人の居場所づくりができていていると思う。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いなれた寝具、テレビなど持ち込みできる。なじみのある置き物やお誕生日カード写真など置いて安心して暮らせるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室の窓からは四季折々の風景を眺めることができる。洗面台とクローゼットがあり、ベッドとダンスが備え付けられている。利用者は居心地良く過ごせるように、お気に入りの物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個人の能力に合わせたベッド柵や、廊下やトイレには手すりがあり、安全かつ自立した生活が送れるよう取り組んでいる。	